

Hem21

NEWS

公益財団法人
ひょうご 震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- 1～2 ひょうご講座
- 3 減災シンポジウム開催結果
- 4 21世紀文明シンポジウム開催結果
- 5 HAT神戸掲示板
- 6～8 人と防災未来センター
MiRAi

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和7年(2025) 7月

Vol.112

「ひょうご講座2025」のご案内 —少し立ち止まって、未来の自分にごほうびを！

災害の多発、激動する国際情勢、DXの進展……。変化のスピードが増す今だからこそ、自分自身と向き合う時間を持つことが、大切かもしれません。

学び直しは、毎日に小さな変化と新しい視点をもたらしてくれるはず。

この秋、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構が主催する「ひょうご講座2025」で、全国からお招きした著名な講師陣とともに、教養やスキルをアップデートしてみませんか？9月から平日夜、兵庫県中央労働センターで開催します。

さあ、あなたも未来の自分に投資してみませんか。



■ 一般コース

頻発化・激甚化する自然災害への備えや、日本を取り巻く環境の変化への対応、流動化する国際情勢に対する各国の対応等についての理解を進めるため3分野で実施します。

○開講分野

分野名	開講時期	回数
防災・復興：災害の教訓を活かし、備える	9月1日(月)～12月8日(月)	8回
社会・地域：VUCAの時代の日本社会と地域を考える	9月3日(水)～12月16日(火)	8回
国際理解：トランプ2.0と向き合う世界	9月5日(金)～12月5日(金)	8回

●開講時間：平日の18時30分～20時

●受講料：12,000円(1分野)

●定員：防災・復興分野40人、社会・地域分野、国際理解分野各50人(先着順。お申し込みはお早めに！)

●開講場所：兵庫県中央労働センター(神戸市中央区下山手通6-3-28)

<<内容の紹介>>

防災・復興：『災害の教訓を活かし、備える』

改めて地震や風水害など自然災害対応を巡る最近の諸課題とその処方について学ぶとともに、ひとたび発生すれば国難をもたらしかねない巨大災害に対する備えについても考えていきます。



第8回 河田 恵昭 講師

1	9月1日(月)	命を守る 地域を守る 福和 伸夫 名古屋大学名誉教授
2	9月8日(月)	災害関連死を考える 奥村 与志弘 関西大学社会安全学部教授
3	9月22日(月)	被災者支援の混乱を止めるために 菅野 拓 大阪公立大学大学院文学研究科准教授
4	10月6日(月)	異常気象と防災—人々の命を守る 南 利幸 南気象予報士事務所代表取締役・気象予報士

5	10月20日(月)	避難生活の環境変化に対応した支援 阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
6	11月10日(月)	災害の教訓を活かし、備える 室崎 益輝 神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授
7	11月17日(月)	地域における実践的な防災教育や訓練 矢守 克也 京都大学防災研究所副所長・教授
8	12月8日(月)	社会現象の相転移発生を利用した防災庁の発足 河田 恵昭 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

社会・地域：『VUCAの時代の日本社会と地域を考える』

わが国の社会や地域を取り巻く環境は急速に変化し、VUCAの時代と呼ばれる予測困難な時代となりました。このような中、私たち一人一人が変化を柔軟に受け止め、未来の社会を自立的に生きていくことが求められています。そこで、社会や地域に大きな影響を及ぼすこれら事象の現況や今後の見通しについて、幅広く考えていきます。



第8回 平田 オリザ 講師

1	9月3日(水)	生成AIの社会的インパクト 村尾 元 神戸大学大学院国際文化学研究所教授
2	9月17日(水)	人々のQoLを向上させる地域づくり 石川 路子 甲南大学経済学部教授
3	10月1日(水)	災害列島・日本—来るべきXデーに備えて 高嶋 哲夫 小説家
4	10月8日(水)	世界政治の変動によるエネルギー需要への影響 原田 大輔 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構調査部長
5	10月16日(木)	分断を生む極端な好き嫌い(民主主義と世論) 善教 将大 関西学院大学法学部教授
6	11月5日(水)	気候安全保障 —気候変動の地政学リスク 関山 健 京都大学大学院総合生存学館教授
7	11月26日(水)	日銀支店長の視点:経済動向と兵庫経済の現状と展望 別所 昌樹 日銀神戸支店長
8	12月16日(火)	文化によるまちづくり 平田 オリザ 芸術文化観光専門職大学学長・劇作家

国際理解：『トランプ2.0と向き合う世界』

米国に再びトランプ政権が誕生し、1期目以上に前政権と異なる独自の方針で、摩擦を伴う施策を推進しています。こうした米国の動きを受けて、日本をはじめ世界各国において対応が迫られており、世界の動きと、各国の現状や対応を見ていくとともに、日本の取るべき道についても考えていきます。



第2回 村田 晃嗣 講師

1	9月5日(金)	ウクライナ戦争と揺らぐ国際秩序 秋元 千明 英国王立防衛安全保障研究所日本特別代表
2	9月26日(金)	トランプアメリカの行方 村田 晃嗣 同志社大学法学部教授
3	10月10日(金)	習近平時代の中国情勢と今後 井上 一郎 関西学院大学総合政策学部教授
4	10月24日(金)	混乱の中東情勢を読み解く 溝渕 正季 明治学院大学法学部准教授
5	10月29日(水)	ロシア情勢と今後 中村 逸郎 筑波大学名誉教授
6	11月14日(金)	1987年体制の終焉? : 二極化する韓国と日韓関係 木村 幹 神戸大学大学院国際協力研究科教授
7	11月21日(金)	岐路に立つ世界とインド 中溝 和弥 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
8	12月5日(金)	ウクライナ情勢と日本、そして兵庫 岡部 芳彦 神戸学院大学経済学部教授

■ リカレントコース

AIやICTが急速に進化し社会が大きく変化する中、現役社会人のキャリアアップや起業・転職の一助として、データ処理等の入門講座を開設。新たな時代に対応できるセカンドキャリア構築に向けた専門的な学び直しを支援します。

○開講分野

分野名	開講時期	回数
データサイエンス：ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく	9月2日(火)～11月4日(火)	8回
AI活用実習：AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ	11月6日(木)～12月4日(木)	5回

- 開講時間：平日の18時30分～20時
- 受講料：5回講座は7,500円、8回講座は12,000円
- 定員：各20人(先着順。お申し込みはお早め!)
- 開講場所：兵庫県中央労働センター(神戸市中央区下山手通6-3-28)

《内容の紹介》

データサイエンス：『ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく』

今後も進展が予想されるビッグデータ、AIの技術はどのようなものでどのように進歩してきたか、また、社会との関わりや今後の展開について、関連諸分野を含めて学びます。

1	9月2日(火)	人工知能技術の今 笹嶋 宗彦 兵庫県立大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部教授
2	9月9日(火)	道具としてのAIとの付き合い方 大島 裕明 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部准教授
3	9月16日(火)	人の動きや行動を分析する機械学習技術 川嶋 宏彰 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部教授
4	10月7日(火)	文章を扱うAI技術 湯本 高行 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部准教授
5	10月14日(火)	アルゴリズム理論とその応用 宮崎 修一 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部教授

6	10月21日(火)	情報社会を支えるアルゴリズム 玉置 卓 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部教授
7	10月28日(火)	問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ 東川 雄哉 同 大学大学院・情報科学研究科兼社会情報科学部教授
8	11月4日(火)	最適化技術の応用と進展 藤江 哲也 同 大学・社会情報科学部長／大学院・情報科学研究科教授

AI活用実習：『AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ』

AI活用で多用されるプログラミング言語Pythonによるプログラミングを学びます。

最新の生成AIを活用したプログラミング実習を通して、実際に手を動かしてAI・機械学習プログラムを体験することで、その基礎技術に対する理解を深め、今後の応用につながる実践的な知識や技能を身に付けます。

1	11月6日(木)	生成AI活用プログラミング／Python入門
2	11月13日(木)	Python/Pandasによるデータ分析とMatplotlibによる可視化
3	11月20日(木)	Python/Scikit-Learnによる機械学習入門
4	11月27日(木)	Python/PyTorchによる深層学習入門と画像認識体験
5	12月4日(木)	Python/Transformersによる生成AI体験

※講師：森本雅和 兵庫県立大学大学院工学研究科准教授

応募方法

- 募集締切：8月18日(月) 必着でお願いします。
(一般コース、リカレントコースともに)
※「AI活用実習」については、9月26日(金) 必着。

- * インターネット、FAX、郵送で受け付けます。
いずれも、先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。
- * 台風等や講師の都合により、休講またはオンライン講義となる場合や、担当講師・テーマ等を変更する場合があります。
あらかじめご了承ください。



【申し込み・問い合わせ】

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
交流推進課 ひょうご講座担当
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
URL <https://www.hyogo-al.jp/kouza/>

ひょうご講座

検索



21世紀減災社会シンポジウム

「阪神・淡路大震災30年 ～「大災害の時代」へ継承すべきこと」を開催(会場+オンライン配信)

ひょうご震災記念21世紀研究機構と朝日新聞社は、2月8日(土)に神戸朝日ホール(神戸市中央区)で「21世紀減災社会シンポジウム」を開催しました。今回のテーマは、阪神・淡路大震災30年の歩みを振り返るとともに、能登半島の災害対応に生かされた教訓と今なお残る課題を考察し、南海トラフ地震など次なる災害が懸念されるなか、阪神・淡路大震災やその後の震災体験から何を学びどのように備えるか、何をどのように後世に伝えるべきかについて考えました。当日、会場には140人が来場し、444人がオンライン配信を視聴しました。

基調講演

「大震災30年 ～震災を振り返り、これからの災害に立ち向かう」

室崎 益輝 神戸大学名誉教授

阪神・淡路大震災では、心の中の希望や夢を育むような「人間復興」という視点を取り入れることを学びました。高齢化の進行、地球規模の環境変化など災害の在り方も30年前と今では変わっています。時代の変化を捉えた教訓を受け継ぐことが必要であり、今だからこそ、その歩みを冷静に振り返ることもできるはずです。例えば、生活再建のスピード感についての課題。「自分の家を修理したい」といった声にも応えながらスピーディに生活再建を進めることを含め、避難生活の改善を図るべきです。そんな阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、被災者の命と暮らしを守る大切さを再確認しなければなりません。復興が長引けばその分苦しみも増え、その結果が関連死という形に表れているように思われます。時間的な戦略には、より厳格さが求められるのです。



災害時の対応において、日本は現金ではなく物資を支援する現物主義です。一方、国際的な対応は現金による支援を肯定的に捉えています。現金は様々な用途に使われ、多様性が生まれやすいという効果を見据えたものであり、日本でも国際的な知見を取り入れた、住民が中心になる再建の仕組みが大切です。ライフラインをただ戻せばいいという考えではなく、地域経済やコミュニティの維持をどうするか、そして一人一人の暮らしや希望、夢を育むところまでを見る「人間復興」という考えを入れていくべきです。

被災地からの報告

「能登半島地震から1年 ～現地からの報告」

上田 真由美 朝日新聞社金沢総局記者

輪島朝市周辺は5haの範囲に木造の店舗や住宅が密集し、249棟が焼失しました。赴任した当時はまだ焼け跡が残り、近づくと焦げた臭いがしていましたが、今はほとんど更地になりました。ところが昨年9月21日、一歩ずつ復旧が進んでいたところに豪雨災害が追い打ちをかけました。「やっと入った仮設住宅からまた避難所に戻った」という方も多く、この豪雨で復旧・復興が遅れるのは間違いない、非常に過酷な「二重被災」になりました。地震と豪雨を経て、特に被害の大きかった「奥能登」では、1年前と比べて人口が8.5%も減少。地域再生に向けて、住民たちによるまちづくり協議会が設立へと動き始めています。

地理的条件や雇用など、知恵を出し合っても解決できないことがあります。しかし、被災地が能登らしいまちを取り戻す将来は、住民たちが自ら地域を見つめ直して頑張ることから生まれるのだと思います。今も意識するのは、取材活動で聞いた「この災害で問われているのは人間の尊厳」という言葉。被災者の命や健康を守るのと同時に、どこでどう暮らすのが幸せなのかを当事者が自ら選択できることも必要です。これからも、住民自身がまちづくりにもどのように関わっていけるのか取材し、伝えていきたいと思っています。

パネルディスカッション

「能登へ、南海トラフへ ～新たな世代が引き継ぐ教訓と課題」

〈コーディネーター〉御厨 貴 機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授

〈パネリスト〉阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授

門脇 幸子 兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム[EARTH]

メンバー／西宮市立浜脇小学校栄養教諭

頼政 良太 被災地NGO協働センター代表／

関西学院大学人間福祉学部助教

長沼 隆之 神戸新聞社論説委員会副委員長

阪神・淡路大震災の教訓について、門脇氏は、被災地の学校現場に入ると「子どもたちの心のケアをどうしたらいいか」とよく聞かれるようになり、「心のケア」という言葉の浸透とその大切さを挙げました。

阪本氏は、一定規模以上の地震では自動的に災害対策本部が設置されるなど、災害対応のスピードアップが図られたことを挙げる一方、自治体職員は2年ほどで異動するため、国にも自治体にも災害対応のプロがいなかったという課題を指摘しました。

次に、世代交代の問題について、長沼氏は、震災後生まれの記者が多数を占める状況になる中で人材育成の面で心がけていることは、彼らを積極的に被災地に派遣して取材させ、被災者の話を聞く体験をさせることや、震災20年ごろから社内外の講師を招いて勉強会を開く取り組みを行っていることを紹介しました。阪本氏は、阪神・淡路大震災における避難所の生活調査方法や様式についての記録が「人と防災未来センター」に保存されていて、東日本大震災の際に関わった宮城県での災害対応の際に非常に役立ったこと。そして、そういう記録を使って災害対応に関わる人材を育てていくことが重要であると指摘しました。

次の世代に記憶を伝えていくことの難しさについて、御厨氏から戦争体験を例にした問題提起がありました。それに対し頼政氏は、2023年の関東大震災100年の時に、当時の社会と現在と比べる取り組みがあったが、阪神・淡路大震災の経験についても、我々のように知らない世代は聞いたことを自分なりに解釈していかねばならないとの見解を示しました。門脇氏も、震災後に生まれた教員が多くなっているが、防災教育では先輩の話を単に聞くだけでなく、自分が知りたいことを積極的に質問し、子どもたちに伝えていくことが必要だとの意見を述べました。

また、頼政氏は、能登半島地震直後にボランティア自粛が呼びかけられたことに触れ、ボランティアは単に労働力としてだけでなく、被災者の「生きたい」という気持ちを引き出す力があると訴えました。

南海トラフ地震への備えについて、頼政氏は、防災のことだけでは疲れるため、普段の活動、例えば地域の運動会などに防災の要素をプラスすることを提案しました。また、長沼氏からは、「想定外」を言い訳にしないことが重要であることに加え、南海トラフ地震では火災、建物の倒壊、津波などが同時多発的に発生し、外からの支援が入り難くなるため、阪神・淡路大震災の教訓がモデルにならない可能性があり、普段から地域で防災について考える場を作ることが大事だと述べました。



「月刊神戸っ子」は、
神戸・阪神間のより豊かで美しい暮らしのための
道しるべです。

■定価 500円(本体 455円+税10%)
■発行 服部プロセス株式会社 神戸っ子出版事業部
神戸市長田区東尻池町2-9-17 TEL.078-686-0585



公式ホームページ



公式Instagram

21世紀文明シンポジウム「気候危機と社会の行方」

日時：2025年2月18日(火) 13:30~16:50 場所：ラッセホール 2階 ローズサルーン

基調講演

「環境、経済から気候危機を考える」

諸富 徹(京都大学大学院経済学研究科教授)

「カーボンニュートラル」という言葉が一般に普及するきっかけとなったのは、2020年、当時の菅義偉首相が「2050年までにカーボンニュートラルを目指す」と宣言したことでした。それまでは、環境省と経済産業省、そして経団連と環境保護運動との間に対立があり、CO₂削減目標に合意できませんでした。この宣言をきっかけに経産省が大きく変わり、それ以降カーボンニュートラルを前提に政策を立案するようになりました。



その後菅首相は、「2030年代半ばまでにガソリン車の販売を禁止する」との方針を打ち出し、EV(電気自動車)が急速に普及しました。住宅メーカーも、当初太陽光パネルを搭載することについて非常にネガティブな反応を示しましたが、東京都が条例で義務化し、川崎市など他の自治体もこれに続きました。

環境規制と経済成長は相反するものと考えられてきましたが、「これらは両立する」という考え方は以前からありました。例えば、マイケル・ポーターという経営学者は、「環境規制はイノベーションを引き起こす」と言いました。ただし「適切に設計された環境規制」であることが条件であり、特定の技術を指定しない規制です。

ポーターの仮説では、ある種のハードルを設けて「これをどんな方法でもいいので越えてください」と示せば、企業はいろいろな方法で研究開発を行い、投資して競うことになります。イノベーションを起こした事例は過去に多数存在します。代表的な例が、日本版マスキー法です。これは排ガスを10分の1にまで削減する規制で、日本では1978年に実施しました。アメリカでは反対が強く、いったんは潰れてしまいましたが、日本車メーカーは触媒装置を付けることでこの規制をクリアしました。しかし、これは排ガスが出た後に触媒装置で取り去る事後的除去であり、「それなら最初から出さない方がいいのではないか」と燃費を良くする方向に向かっていきました。それがちょうど石油ショックでガソリン価格が高騰する中にあり、「日本車は燃費が良い」とアメリカで大受けし、日本の自動車メーカーが1980年代以降に北米市場で成功を収める大きな要因となりました。

それだけでなく、当時トヨタ自動車の理事であった笹之内雅幸さんは、「このマスキー法のおかげでハイブリッド車の開発ができた」と述べています。トヨタもマスキー法対応に向けて人材と開発費を大量に投入し、世界に先駆けて触媒技術を確立、規制値をクリアしました。これが次世代低公害車(ハイブリッド車)の基本技術をつくり出し、それによって「自動車屋」的な開発体制が、研究・開発を有機的に進捗管理できる組織へと変貌したのは特筆すべきことと著述しています。そして、環境上の要請が高まることによってトヨタも自動車業界全体も体質が変わった、とまで証言しています。

東京大学名誉教授だった経済学者の宇沢弘文先生が提唱したのが、「社会的共通資本論」です。これは、社会経済システムの根本というものがあるという理論です。つまり、社会資本、制度資本(医療、教育)など、市場だけで蓄積されない社会の重要な資本というべきものがあり、そういった土台の上に私たちの経済・生活があるということ。高度成長期はそれを意識せずに壊し放題に壊してしまっただけで、その報いを今、受けつつあります。経済成長が第一と置いていたうちに、いつの間にか土台が崩れて山火事が起き、ハリケーンに襲われることになってしまったのです。

そういう意味で、われわれは成長優先主義から転換していかなければなりません。「貨幣的な意味での利益さえあればOK」という時代は終わり、われわれの幸福度、ウェルビーイングを重視する時代に入りました。給料が増えるのはありがたいけれど、給料だけで生きているわけではありません。それが「幸福」につながっていかなければならないのです。

パネルディスカッション

〈コーディネーター〉

諸富 徹(京都大学大学院経済学研究科教授)

〈パネリスト〉

山野 博哉(国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域 上級主席研究員／東京大学大学院理学系研究科教授)

工藤 泰子(元日本気象協会主任技師／気象予報士)

関山 健(京都大学大学院総合生存学館教授)

三上 直之(名古屋大学大学院環境学研究科教授)

山野 自然あるいは生物多様性は、昔から保全する対象ではありませんが、ただ愛でるだけではなく、自然環境や生物多様性を活用してさまざまな問題に対処していくという発想の転換が起こりつつあります。保全からさらに一歩進んだネイチャーポジティブという考え方。今まで損なわれてきた自然を回復軌道に乗せて、2050年までに完全回復させるというなかなか野心的な目標です。また、生物多様性の保全をベースに、さまざまな社会問題の解決につなげていくことが求められており、その一つがカーボンニュートラルです。ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルの両立とともに、さらに循環経済(サーキュラーエコノミー)を併せた三つをうまく両立する道を探らないといけないという世の中の流れになっています。

工藤 アメリカの統計によると、気象災害による死者のうち、暑熱による死者数が洪水、トルネード、ハリケーンを大きく上回っています。暑さによる死因は熱中症だけではなく、高温が引き金となる循環器疾患や呼吸器疾患が非常に多い。日本の場合、暑熱年には超過死亡数が熱中症死者数の約8倍となり、1万人程度に上る可能性があります。気象庁は最近、「災害級の暑さ」と表現していますが、まさに災害であり、暑さによって非常に多くの人が亡くなってしまおう。逆に言えば、暑さを避ければ救える命です。

これらは適切に対応すればリスクを効果的に減らせますが、局所的、断片的ではなく、予見的、システムのあり、包括的な対策をする必要があります。アーバンフォレストと呼ばれるような大規模な緑化を進めたり、低家賃で省エネ性能の高い公営住宅を増やすことで、ある程度の解決策になるのではないかと考えます。

関山 異常気象や自然災害が紛争につながるメカニズムとして、資源不足の影響が目立っています。今後の気候変動によって、水や農地、森林、漁業資源などが不足すると、希少性を増した資源を巡って競争や対立が激しくなるだろうと考えられます。

特に異常気象や自然災害は、農業や漁業などの食料生産に深刻な影響を与え、生産者の収入減や社会全体の食料価格の上昇を招く可能性があります。生活に行き詰まる人々の中から、暴力に加担してでも食いつなごうとする人が出てくるのが危惧されます。実際、インドネシアでの稲作やサブサハラ・アフリカでのトウモロコシ栽培では、主要作物の生育期に異常気象が発生すると収穫量が減少し、結果としてその地域において内戦の発生率が高まることが報告されています。

食料危機や物価高騰が暴動に結び付くケースは、各地域の適応力・脆弱性が関わってくるものの、歴史を思い起こせば数多く存在します。

三上 「気候市民会議」という新しい市民参加の手法があります。これは社会の縮図となるように無作為に選出された市民が集まり、バランスの取れた情報提供を受けて、グループに分かれてじっくり議論し、その結果を政策提言などの形で集約して国や自治体の気候変動対策に用いるというもの。2019年ごろから、まずはヨーロッパで国、自治体レベルで急速に広がりました。

多くの人が気候変動やエネルギーの問題について、「このままでは危ない」という思いをどこかで持っていて、それが潜在化しています。これを顕在化させて、バランスの取れた情報や議論に基づく意見を形成し政策決定に生かすようなシステムの変革が必要です。

こうした意思決定の仕組みのイノベーションも同時に起こらなければ、脱炭素社会への転換は実現できないと多くの人が考えるようになっており、そうした必要性や実践が起こり始めている状況を、私は「気候民主主義」と呼んでいます。



HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行・キャリアー百年目の再会」

20世紀前半の海外で成功と挫折を経験した藤田嗣治(1886-1968)と国吉康雄(1889-1953)。二人の画家が、ともにフランス・パリに滞在した1925年から今年は100年目にあたります。

兵庫県立美術館ではこれを機に、特別展「藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行・キャリアー百年目の再会」を開催いたします。巡回なし、兵庫県立美術館のみの展覧会です。関連イベントも多数開催いたしますので本展と併せてお楽しみください。

■会 期 = 6月14日(土)～8月17日(日)

■観覧料 = 一般 2,000(1,600)円、大学生 1,200(1,000)円、高校生以下 無料、70歳以上 1,000(800)円、
障害者手帳等をお持ちの方(一般) 500(400)円、障害者手帳等をお持ちの方(大学生) 300(250)円
※()内は団体料金 ※一般以外は要証明書

◎休館日 = 月曜日(7月21日、8月11日は開館し、7月22日、8月12日が休館)

◎開館時間 = 10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ TEL 078-262-1011



JICA関西

国際協力?SDGs?JICAかんさい地球ひろば!

JICAかんさい地球ひろばでは、SDGsや国際協力、世界・異文化について理解を深め、考え、動き出すきっかけづくりのための、見て・触れる常設展や企画展を無料でご覧いただけます。



大阪・関西万博を機に展開中の「ひょうごフィールドパビリオン」に認定されているJICAかんさい地球ひろばで、SDGsの達成に向け自分でもできることについて考えてみませんか。展示室では、8月開催のTICAD(アフリカ開発会議)に合わせてアフリカについて知っていただく展示を行っています。また、併設しているJICA関西食堂では、世界の料理をご提供しています。皆さま、お気軽にお立ち寄りください。

JICA関西 LEDビジョンを設置しました!

2025年4月から、国際協力について様々な動画を通じて学ぶことができる大型LEDビジョンを設置しています!立体映像のタッチパネルで、開発途上国に関する360度動画を操作することも可能ですので、ぜひお立ち寄りください。



JICA関西
Instagram

■問い合わせ

TEL 078-261-0341

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/index.html>



JICA関西HP

JICA関西食堂について

■営業時間:

(昼) 11時半から14時まで (夜) 17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

■定休日: 年中無休(年末年始を除く)

※メニューや営業日時詳細はJICA関西食堂ホームページをご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>

日本赤十字社 兵庫県支部

司法書士による相続・遺言セミナーを開催します!

令和6年4月1日、相続登記の義務化がスタートし、「相続」や「遺言」は身近な問題となりつつあります。

相続・遺言に必要な知識を具体的に分かりやすくお伝えしますので、ぜひこの機会にご参加ください。



○相続・遺言セミナー

(主催:兵庫県司法書士会・日本赤十字社兵庫県支部
後援:神戸地方方法務局)

日 時: 令和7年10月19日(日)

13:00～14:30(開場 12:30)

場 所: 西宮市民会館(アミティ・ベイコムホール)

3階 301会議室

兵庫県西宮市六湛寺町10-11

(阪神西宮駅から徒歩1分)

定 員: 50名 要事前申込【申込多数の場合は抽選】

申込締切: 令和7年9月5日(金)

参 加 費: 無料

また、同日に相続・遺言無料相談会も開催します。

※セミナー参加者限定(相談会のみ受付はできません)

詳しくは、日本赤十字社兵庫県支部のホームページでご確認ください。

ホームページ: <https://www.hyogo.jrc.or.jp/>

「人間のいのちと健康・尊厳を守る」赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって成り立っています。活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/>

※日本赤十字社の活動資金にご協力いただくと、金額に応じ、税制上の優遇措置や紺綬褒章・大臣表彰等の対象となります



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

令和7年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

次世代を担う子どもたち・学生の防災活動や災害支援に取り組む活動が、防災教育の新たな道を切り開いて進むように、との願いを込めて、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施します。

この事業は、平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向けて継承していくことを目的に、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生、地域団体の方を顕彰しようというもの。例年、受賞校の表彰式・発表会を神戸市内で開催しており、今年度は、21回目の開催となります。

【主催】兵庫県、(株)毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(人と防災未来センター)

【対象部門】

①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生 ⑤特別支援学校・団体

【対象活動】

自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み(被災地支援活動も含む)。

※学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で応募してください。

【対象期間】

令和7(2025)年4月1日～令和8(2026)年3月31日(活動予定も含む)

【応募締切】

9月30日(火)

【応募方法】

右記のQRコードより応募書類をダウンロードの上、メールで送信してください。

メール確認後1週間以内に、事務局から応募の確認と今後の予定についてメールを送ります。

【問い合わせ】

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区協浜海岸通1-5-2 西館6階

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

人と防災未来センター事業部事業課

TEL:078-262-5068 FAX:078-262-5082

E-mail:b-koushien@dri.ne.jp



応募書類
ダウンロード用



人と防災未来センター
ホームページ



上：令和6年度表彰式の様子
中・下：受賞校の活動の様子

企画展「令和6年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」を開催

5月27日(火)から6月22日(日)まで、西館1階ロビーで企画展「令和6年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」を開催しました。

会場では受賞校・団体の児童、生徒、学生、社会人等の活動を紹介するポスター作品を展示。防災訓練や避難所運営方法の新たな発案、防災・減災を学ぶためのさまざまな取り組みを、多くの来館者が閲覧しました。



防災100年えほんプロジェクトについて

災害から命を守るために大切なことや、防災・減災に役立つ知識など、100年先まで伝えたい知恵や思いを絵本で届ける「防災100年えほんプロジェクト」。令和4年度に立ち上げ、これまで4冊の絵本を出版しています。

1 第4回 ものがたり(絵本の原案)募集

新たに制作する防災絵本の原案となる「ものがたり募集」を行います。災害や防災・減災について、多くの人に伝えたい「ものがたり」を書いてぜひご応募ください。

【応募期間】

9月1日(月)<防災の日>～10月13日(月・祝)<国際防災デー>

【応募規定】

文字数 2,000字

年齢 応募時点で15歳以上

応募点数 1人につき1作品

言語 日本語のみ

内容 事実に基づくもの、フィクション(創作)のいずれでも可。作品は応募者の自作でこれまでに未発表・未応募のものとする。過去に他の公募に応募した作品、また既存の作品からの転用等が確認された作品等、内容規定に反することが確認された場合、入選後も失格とする。

※詳細は、ウェブサイトでご確認ください。

<https://bosai100nen-ehon.org>



2 「第1回 ものがたり(絵本の原案)」入選10作品の英語版の公開

令和4(2022)年11月5日から令和5(2023)年1月17日まで募集した「第1回 ものがたり(絵本の原案)」の入選10作品を日本語だけでなく英語に翻訳し公開しています。絵本だけでなく、これらの「ものがたり」もぜひ読んでみてください。

URL: <https://bosai100nen-ehon.org/library>

【問い合わせ】

防災100年えほんプロジェクト実行委員会事務局

E-mail contact@bosai100nen-ehon.org

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:650円(500円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(250円) 大学生:200円(150円)

高校生・中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料

(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休

交通

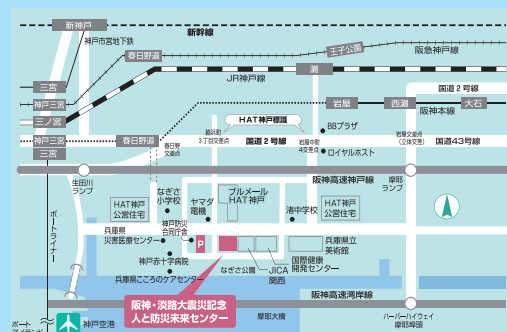
- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
 - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり

メルマガ

センターの活動や企画展開催の情報を配信中

友の会

個人会員 3,000円/年 法人会員 一口50,000円/年



#人と防災未来センター

震災資料のメッセージ2025(前期) 「震災と映画」の開催について

「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈され、収蔵庫に保管されている一次資料(震災当時に被災したり、使用されたりした現物)を紹介するスポット展示です。今回は「震災と映画」をテーマに、震災からの復興と映画の関わりを紹介します。

神戸市は、日本における「映画発祥の地」と呼ばれており、多くの劇場や映画館が集まっていた。阪神・淡路大震災ではそれらの映画館が被災し、閉館を余儀なくされたものもあります。しかし、被災地の人々を元気づけるために、チャリティー上映や出張上映会、映画祭の開催など、さまざまな取り組みが行われてきました。

また、震災のドキュメンタリー映画だけでなく、『男はつらいよ 寅次郎紅の花』や『瀬戸内ムーンライト・セレナーデ』など震災後の街で撮影を行った邦画作品もあり、復興の様子を伝えるとともに被災者に元気を与えることもありました。

今回の展示では、損壊した映画館の写真や上映会のチラシ、映画祭のパンフレットなど震災と映画の関わりが分かる資料を通して、被災者への激励や震災復興において映画がどのような役割を果たしたのかを紹介します。

【開催期間】 6月10日(火)～11月30日(日)

【展示場所】 西館3階(有料ゾーン)

【問い合わせ】 人と防災未来センター西館5階 資料室

TEL:078-262-5058 FAX:078-262-5062

※資料室はどなたも無料でご利用いただけます。

(開室時間 9:30-17:30、月曜日閉室)



『1995・神戸・ある避難所の記録 すきなんやこの町が』
ビデオ宣伝チラシ

「神戸新聞会館の被害状況」
神戸市中央区

大阪・関西万博 ひょうごフィールド パビリオンフェスティバルに出展しました

兵庫県では、大阪・関西万博に合わせて、県下各地の「活動現場そのもの(フィールド)」を地域の人々が主体となって発信し、体験していただく「ひょうごフィールドパビリオン」を展開しています。当センターではその一環として、アテンダントが展示ポイントを案内する「スペシャルガイドツアー」プログラムを提供しています。

5月30日(金)には、万博会場の「ギャラリーWEST」で開催された「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル2025」にJICA関西と共同出展し、センターおよびフィールドパビリオンプログラムについて紹介しました。また、大屋根リング下に設けられたポップアップステージでも、阪神・淡路大震災やセンターについて説明し、国内外問わず、多くの方にセンターを知っていただく機会となりました。



Hem21NEWS
vol.112

令和7年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)

<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください